



2026年3月3日

各 位

A b a l a n c e 株 式 会 社  
代表取締役会長兼 CEO 龍 潤 生  
(コード番号：3856 東証スタンダード)  
問合わせ先：人事総務本部 IR・広報部副部長 内 田 晋  
電 話：03-6810-3028 (代表)

### (開示事項の訂正) 第三者割当による新株式の発行に関するお知らせ

当社は、2025年12月17日開示「第三者委員会の調査結果報告書公表に関するお知らせ（以下、「本報告書」という。）」及び2026年2月26日開示「検証委員会の検証報告書公表に関するお知らせ」で公表した内容のとおり、第三者委員会及び検証委員会から2025年4月に実施した第三者割当増資に関して、不適切な開示がなされている旨の指摘を受けました。

このため、2025年4月10日開示の「第三者割当による新株式の発行に関するお知らせ」に関し、一部訂正する事項が発生しましたので、下記の通りお知らせします。

#### 記

##### 1. 訂正の理由

本報告書では、「第10 2025年4月の第三者割当増資等について」の「4 本件増資に関する有価証券届出書記載事項の適切性」の中で、「A氏は、Abalanceへの払込前に、2025年4月9日貸付けにおいてWWBから払込金額よりも大きい2億9000万円の融資を受けており、外形上、当該融資を払込原資として、払込みを行ったようにも見える。」との指摘がございました。これに対し、検証委員会が本件の調査を実施し、事実関係を確認したところ、上記融資及び当社の龍潤生取締役（当時）による融資金額の増資払い込みへの引き当てが確認されましたので、この点について、訂正をさせていただきます。

##### 2. 訂正の内容（訂正箇所は下線部）

###### 【訂正前】

##### 7. 割当予定先の選定理由等

###### (1) 割当予定先の概要

龍潤生

(1)	氏 名	龍潤生
(2)	住 所	東京都品川区

(3)	職 業 の 内 容	当社取締役
(4)	当社との間の関係	
	資 本 関 係	龍 潤生は、当社の普通株式を 4,360,250 株（議決権比率：24.47%）保有する筆頭株主です（2025年3月31日現在）。
	人 的 関 係	龍 潤生は、当社取締役です。当社連結子会社の <u>WWB 株式会社</u> の取締役、VSUN の Chairman of the Board、及び TOYO の Chairman of the Board 等を兼務しています。
	取 引 関 係	<u>該当事項はありません。</u>
	関 連 当 事 者 へ の 該 当 状 況	関連当事者に該当します。

(4) 割当予定先の払込みに要する財産の存在について確認した内容  
龍 潤生については、2025年3月25日付銀行預金残高証明書を受領し、十分な資金が確保されていることを確認しております。

【訂正後】

7. 割当予定先の選定理由等

(1) 割当予定先の概要

龍 潤生

(1)	氏 名	龍 潤生
(2)	住 所	東京都品川区
(3)	職 業 の 内 容	当社取締役
(4)	当社との間の関係	
	資 本 関 係	龍 潤生は、当社の普通株式を 4,360,250 株（議決権比率：24.47%）保有する筆頭株主です（2025年3月31日現在）。
	人 的 関 係	龍 潤生は、当社取締役です。当社連結子会社の <u>WWB 株式会社</u> の取締役 CEO、VSUN の Chairman of the Board、及び TOYO の Chairman of the Board 等を兼務しています。
	取 引 関 係	龍 潤生は当社連結子会社 WWB 株式会社から 290 百

	万円の借入があります (2025年4月9日借入)。
関連当事者への 該当状況	関連当事者に該当します。

(4) 割当予定先の払込みに要する財産の存在について確認した内容

龍 潤生については、2025年3月25日付銀行預金残高証明書を受領し、十分な資金が確保されていることを確認しておりましたが、2025年4月9日、龍 潤生は当社連結子会社 WWB 株式会社から 290 百万円の借入を行い、本払い込みにその資金を充当しておりました。なお、締結した金銭消費貸借契約書の弁済期限は 2025年6月30日であり、元本は 2025年8月29日に完済し、2026年2月9日に利息分及び本年2月19日に遅延損害金を返済済みです。

### 3. 今後について

当社は、本件に関し、検証委員会から指摘されたとおり、関連当事者取引及び利益相反取引に該当するところ、取引の妥当性や合理性が検証されておらず、会社法上の手続も十分履践されておらず、上場会社である当社やそのグループ会社としての取締役を牽制するためのガバナンス体制が機能していなかったため、このような訂正が生じたことを反省しております。今後同様の事態が発生しないよう、再発防止策を策定し、内部統制の改善を図ってまいります。

以 上